

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172700492		
法人名	社会福祉法人 誠由会		
事業所名	グループホーム ハピネス狭山		
所在地	埼玉県 狭山市 富士見2-16-8		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は5階にあるため、季節によっては富士山が見えるなど景色の眺めが良い。</li> <li>・最低でも月一回は外食を心掛けている</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>見守りの介護という理念が様々な取り組みや支援に活かされている。「手を貸すのは簡単だが、それではその人らしさを奪ってしまう」との理念から見守りすることを大切に考え、実践されている。</p> <p>ホーム長の人柄が職員から信頼を得ており、意見提案などが積極的になされて、ケアの質の向上に結びついている。</p> <p>風通しの良いコミュニケーションで笑顔の耐えない明るい職場環境になっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどで職員間で確認している。	利用者一人一人のその人らしさを尊重し、「見守り」の心でケアするという理念が職員にも共有されており、利用者本位の支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の行事に参加している。ボランティアの受け入れなど積極的に行っている。	地域の夏祭りや保育園の運動会へ参加したり、また地域の方を事業所の「流しソーメン大会」に招待したりと積極的な働きかけがなされ、相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見はミーティング時に職員に伝達し、共有している。	運営推進会議では、職員の積極的な日常の挨拶の励行などや、地元から理解をいただける方法などをテーマにした話し合いも行われ、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事例検討会などに参加。事業所の運営上困難なことがあった際に連絡し相談している。	市内のグループホーム職員が集まって困難事例を出して解決方法を話し合う事例検討会などに市からの情報をいただいたり、対応を相談したりと働きかけを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来一度も無く身体拘束マニュアルを作成し取り組んでいるが、玄関の施錠は立地条件上などの理由で行っている。	理念にある「見守りケア」が身体拘束しないケアにつながるという考え方が、職員全員に共有されており、すぐに手を出したり、利用者の行動を止めたりすることなく、利用者のペースでの支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無いようミーティングなどで話し合い、防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階、必要な方はいないがいつでも活用できるよう、成年後見制度についての資料を用意し、各自で研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成担当者から、十分な説明を行い、納得をしてもらえるよう務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに参加してもらえるよう声を掛けている。	家族の意見や要望などは面会時に傾聴しており、その内容を職員にも周知し、運営そしてケアの質の向上に反映させるように取り組みを行っている。	運営推進会議への出席を含めて家族に積極的に意見をいただけるよう、他の事業所の事例やアイデア等の情報収集を行い、工夫を作り出すことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議・ミーティングを設け、話し合っている。	ミーティングを中心にホーム長から職員への声かけを行い、意見や提案は出しやすい環境が整っている。具体的なケアの方法や事業所運営の業務上のシステム的なことについても提案され、事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給の他に特別有給あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修での経験を活かし職員一人ひとりの能力に応じた職員育成をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換会などに参加しネットワーク作りにも動いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で利用者と話す機会が多くその都度受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時、月一回の通院介助などに話を聞き受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受けた相談を職員同士で話し合い、皆で本人が必要とされている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの出来ること、出来ないことを把握し本人の特技に活かせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時に積極的に話す機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた近所を散歩・ドライブなど又、買い物中知り合いなどにあたりする。	利用者が入居前に住んでいた近くの店に買物に出たり、家族が面会時になじみの美容室に連れて行ったりして、馴染みの継続を図っている。また遠方の知人への写真入りの年賀状は利用者や家族から大変喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯など利用者同士で声を掛け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族に行事などに参加していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に実調へ行き思いや暮らしの希望を聞いている。又、困難な場合は職員同士で話し合っている。	利用者一人ひとりが話す言葉に注意を払い、また日常の行動を観察したり、生活歴や好きなことを情報収集する中で、精神的な信頼関係を築き、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に記入していただくシート有り。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に職員同士、情報の共有に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来訪時に情報を提供しこれについての意見・要望を聞きミーティングなどで共有している。	利用者や家族の要望が介護計画に反映されるように、計画作成は居室担当者からの意見をもとに全員で話し合い、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各々の日々の生活記録があるのでそれを活かし介護計画に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に通院介助をしていただいているが、緊急時等職員が通院介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練など積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院介助をしているが、その際情報を提供している。	利用者のかかりつけ医への通院受診を優先させている。緊急の場合は協力医療機関との連携で、受診が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所のデイサービス看護職員に相談などの連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族又は、見舞いに行った職員から情報を提供していただき病院に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間でつねに検討し、家族とも話し合っている。	早い段階から本人や家族と話し合い、家族にも日常の様子などを伝えて、方針を共有している。できるだけ支援が出来るように職員間でも常に検討を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアル作成し職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。災害時の連絡及び協力体制が組織化しており、事務所に明示されている。	自衛消防隊が組織化され、避難訓練もいろいろな場面を想定して行われており、ホーム長は消防署との協力体制作りにも積極的な取り組みを考えている。	建物の5階という特性から、避難方法の工夫、地域の方の協力体制などを運営推進会議のテーマに掲げ、非常災害対策等について、構築されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活暦や実調などで得た情報を把握し声かけにも気をつけている。	利用者の気にされることはしない、言わないを基本とした接し方が実践されている。居室やトイレ、お風呂の戸を閉める、職員が居室へ出入りする際の配慮など、当たり前のことを当たり前に行い、尊厳とプライバシーの確保の取組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の様子を常に観察し、なにを必要としているのかを考え自分で納得できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との日常会話からどのように過ごしたいかなどを聞き、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物などで洋服屋へ行く機会があり。理容・美容については当事業所に理容室あり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶の時間など利用者の皆さんと話す際、好みを聞いている。利用者と食事の準備をしている。	利用者も職員と一緒に食材の買物に参加し、その食材をもとにメニューが作られている。「自然な食事のペース」を守りながら、完食につながるよう、楽しい食事支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の生活記録に記載		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な方には職員が見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンなど記録に残し職員で把握し必要な方には声かけを行っている。	日常の排泄記録や利用者の表情から察知し、ゆとりを持った誘導で、自立を目指したケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄しやすいよう水分摂取のうながしや散歩等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常入浴時間は19時からだが要望があれば時間を合わせている。	家庭の生活サイクルを考えて、一人ひとりの希望に合わせた時間に対応している。入浴を拒否する方には、あまり強い誘導はせず、利用者個々の意志を優先させている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し一人ひとりの日中の仮眠できる場を提供している。また、起床時間はそれぞれ違う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストで各々の状態を把握又、症状の変化の際家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、それに応じた役割をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など希望に合わせて実地している。	職員側の都合での支援にならないように、利用者と職員の日ごろの会話で「どこに行きたい」「どんなものが見たい」かを把握したり、季節に合わせた外出企画の提案も行い、家族と協力しながら支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者各々から個人金を預かって、買い物などの際要望があれば使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している利用者有り。また、要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭の雰囲気が出せるよう配慮している。	共用空間にも使い込まれた家具が自然に置かれている。また外来者からの提案で「一般家庭に見られる畳の和室」を設置し、利用者からも喜ばれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で利用者同士話をしている。各々ソファなどで独りで過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきた使い慣れた家具などを置いている。	居室作りは利用者と家族が中心になって行い、できるだけ入所前の自分の部屋の雰囲気、居心地よく過ごせるように、職員も相談に乗って工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故の無いよう職員が見守りを行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ハピネス狭山

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 4月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	35	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法	建物の5階という特性から、避難方法の工夫、地域の方の協力体制などを運営推進会議のテーマに掲げ、非常災害対策等について構築する	初期火災対策としてスプリンクラーを設置した。また、5階という特性上、入居者様の移動を考慮して、上下ではなく火元から遠いベランダ等への水平避難を行う。先日、消防署の立会い指導の下、マニュアル等を作成の上、避難訓練を実施した。	0ヶ月
2	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映	運営推進会議への出席を含めて、家族に積極的に意見をいただけるよう工夫する。	運営推進会議に出席いただけるよう積極的な声かけ、お知らせをすると同時に、行事等と絡めて運営推進会議を開催し、ご家族に出席いただくようお願いする。広報等でもご案内し、運営推進会議の内容を知っていただくよう心掛ける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。